



冬期間の鳥獣被害対策



福島県農林水産部農業振興課

ほ場に農作物が少なくなってくると、取り残した農作物など人間には不要となったものが野生鳥獣にとっては魅力のある餌になります。これらは、早期に処理しましょう。

また、収穫が終わったほ場で電気さくの柵線（ワイヤー）を撤去しない場合は、農作物がなくても通電しましょう。電気さくは「心理柵」であることから、通電していない柵線に慣れてしまうと、再通電したときに期待する効果が得られなくなってしまう。

なお、今年は春先から県内各地でクマの目撃が多く、人身事故も発生しています。十分に注意してください。

1 収穫後の電気さくの管理

電気さくは獣が電気ショックを経験することにより、その痛みから柵周辺に近づかなくする心理柵です。通電しないまま設置していると、電気ショックを感じないため電気さくを恐れなくなります。

獣は体の大部分が毛に覆われているため電気ショックを感じる場所は鼻など一部に限られています。しかし、電気さくを恐れなくなり慣れてくるとワイヤーを避け、あらかじめ頭を下げて地面との間をすり抜けるので、通電時に感電する確率が大きく下がります。

積雪のない中通りや浜通りでは、作物の収穫後電気さくがそのまま設置されていることがあります。作付けのない時期にワイヤーを撤去しない場合は、通電を継続してください。

2 イチゴの被害対策

イチゴは、施設内であってもハクビシンによる被害が見られます。ハクビシンは夜行性で、甘いものを好み、中でもイチゴは好物です。ハクビシンの施設内への侵入パターンは次の3つがよく見受けられますので、良く点検し侵入を防止しましょう。

①地面との隙間から

ハクビシンの頭骨の高さは6 cm以下で、5～6 cm程度の隙間があれば侵入できます。出入口をはじめ小さな隙間をよく点検してください。

②ビニールを破いて

ビニールに小さな穴が開いていたり、たるみがあったりすると噛んで侵入できる大きさに破きます。ビニールは破れを補修するとともに、たるみなく張りましょう。

③天窓や換気扇から

ハクビシンは登ることが得意なことから、天窓や換気扇の隙間からも侵入します。天窓や換気扇周りも隙間をよく点検してください。

施設を点検・補修してもハクビシンの侵入痕跡が認められる場合は、埼玉県が開発したネットと電気さくを組み合わせた侵入防止柵「**楽落くんライト**」(<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0909/cyoujyuu-tantou.html>)などを活用すると侵入防止効果が高まります。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 3 9

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>